

一般廃棄物焼却灰を原料とする人工骨材の環境安全性に関する研究

研究概要

・日本の廃棄物処理は主に焼却処理が行われ、毎年大量の焼却灰が発生している。但し、現状では焼却灰の利用率は約30%程度であり、焼却灰の埋め立て量を減らし、資源の再利用を促進するためには、焼却灰の有効な活用が検討される必要がある。

・廃棄物焼却灰の主成分はセメントに似ているため、建築材料や路盤材としての利用が考えられる。

・一方で、焼却灰には有害物質が含まれており、環境に負荷を与える可能性がある。そのため、焼却灰の性質に基づいて適切な処理方法を選定し、適切な補助剤と製造プロセスを組み合わせ、環境に配慮した人工骨材の製造が求められる。

・本研究は、持続可能性と環境への配慮を追求し、焼却灰を原材料として加工し、優れた性能と環境への配慮を兼ね備えた人工骨材を創造することを目的としている。人工骨材は、道路敷設や土木工事で広く使われているだけでなく、資源の有効利用を促進し、セメント原料（石灰石など）などの天然資源の消費を抑え、低炭素で環境に優しい役割を果たすことができる。

